

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900192
法人名	医療法人 康仁会
事業所名	グループホーム 桃太郎
所在地	愛媛県四国中央市中曾根町994番地
自己評価作成日	平成 21年 6月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安全・安心・やすらぎ 大家族」という運営理念の下、利用者・利用者家族・職員一人一人が大家族であるよう、暖かな心の交流のあるグループホームを目指しています。認知症進行防止に対する取り組みは、「紙の町」という地域性から、紙製品を使った作業療法、アニマルセラピーや音楽療法、季節の花や野菜を栽培する園芸療法等広く浅くですが実施しています。
校区の小中学校、高等学校等との交流も図り、地域に密着した運営も心がけています。
常勤看護師の採用や、看護師不在時にも隣接する老人保健施設と連携を取り、医療的にも安心していただけるよう努めています。
また、個別ケアを重視し、より利用者一人一人のニーズに応えられるよう、これからも職員一同頑張ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営主体が医療法人であり、健康管理や医療のバックアップは心強いホームである。また、同法人は病院、訪問看護ステーション、老人保健施設等を運営し、ホームはこれらの施設と連携し合っている。特に、隣接の老人保健施設とは、緊急時における職員の支援体制が整備されており、また行事を合同で行う等の連携がある。職員は各利用者の思いを大切にケアを心がけ、生活の知恵を利用者から学び、大家族のように共に過ごすという気持ちで支援している。地域とのつきあいが活発で、近くの小・中・高等学校等と交流し、近隣住民とは散歩で挨拶を交わしたり、野菜を届けてくれる等の良好な関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 桃太郎
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	大野 弘美
評価完了日	21年 6月 26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中でその人らしく安心した安らぎのある生活を送っていただけるよう、事業所独自の理念を作っている。「安全・安心・安らぎ大家族」という理念は、入居者のみならず、職員も家族の一員と意識付けるため、出勤時は「ただいま!」退勤時には「行ってきます!」とあいさつするようにし、入居者も笑顔で手を振ってくれている。</p> <p>(外部評価) 利用者が地域でその人らしく暮らしていくことを踏まえ、職員で話し合っ作った理念である。その理念をホーム内に掲示し、各職員の名札の裏に記す等で理念を共有し合っている。また、理念を月間目標として具体化して日々の実践につなげ、毎月振り返りをしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 校区内の小中学校、高等学校と、交流の場を持ち、各種行事(音楽会・運動会等)の案内をいただいたり、そのお礼に合格祈願の貼り絵やクリスマスの貼り絵、ホームで育てた鉢植えを送ったりしている。日常的にホーム周辺の散歩に出かけ、挨拶を交わしたり、畑から声をかけていただき、野菜をいただいたりしている。</p> <p>(外部評価) 利用者が近くの小・中・高等学校の運動会等の行事に出かけたり、季節の貼り絵や生徒を応援する作品を学校に届ける等の交流がある。また、外出や散歩等で近所の人々と挨拶を交わしたり、住民が野菜や季節の花を届けてくれる等のつきあいもある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 庭先の植物を近隣の方におすそ分けしたり、お世話になった時には、必ず何らかのお礼をし、入居者自身の役割作りにもなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) テーマによっては、消防署員を招いて研修会を開催して貰ったり、警察署の生活安全課の職員を招いて意見を頂き、行政に徘徊SOSネットワーク作りの必要性を訴えたりしてきた。また、愛媛県糖尿病療養指導士の資格を持つ看護職員の「認知症と糖尿病」についての研修会を持ったり、行事報告をすることにより、グループホームへの理解を深めていただいている。</p> <p>(外部評価) 会議ではホームの実情や行事等を報告し、それらに対する質疑応答がなされている。また、ホームの課題についても話し合い、「徘徊SOSネットワーク」の検討では警察の方にも出席してもらおう等の取り組みを行っている。会議での意見や検討事項をサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市役所まで出向いたり、電話等で相談の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。担当者には、いつも丁寧に対応していただき、感謝している。</p> <p>(外部評価) 日頃から、市の担当者の所へ出かけたり、電話をしてホームの事業や利用者のことで色々と相談している。相談の結果や介護保険、介護に関する情報をサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関の施錠は原則防犯の意味（夜間等）のみとしており、身体拘束しないケアの必要性についても研修会を持っている。</p> <p>(外部評価) 代表者及び職員は身体拘束をしないケアの意義を理解し、抑圧感のない生活の支援に取り組んでいる。リスクに関して家族の理解も得ながら、玄関に鍵をかけずに自由に入出りのできるケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、伝達講習することにより、なにげない、些細な事も虐待に値する事を職員全体で周知している。また、グループホーム内での虐待が見過ごされていないか、家族による虐待が見過ごされていないか注意しながら、日々の様子を観察し、業務の見直し等を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者が研修にて学んだ内容を他の職員にも伝達講習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査を行い、契約時には丁寧に説明し、同意を得てサインをいただくようにしている。重要事項説明書等で、理解しにくい表現に関しては、「入居に関する確認事項」という、別の書類で更にわかりやすく説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議、アンケート調査等が出た意見や苦情等は改善策を職員間で話し合い、早期に対処するよう心掛けている。また、その結果は、家族は勿論のこと運営推進会議でも報告している。 (外部評価) 利用者や家族等の意見は家族会、運営推進会議、年2回のアンケート等で把握し、課題を職員間で話し合いサービスの質の向上に活かしている。利用者や家族等からの苦情・相談の対応は文書で説明しているが、具体的な連絡先の記載はない。	家族等の立場としては、要望や相談等の窓口について、ホーム内だけではなく、外部機関の連絡先についても文書に明記のうえ説明してもらえればより安心なので、具体的な苦情相談窓口を文書等に明記し説明しておくことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回スタッフ会議を開催し、原則として全員出席の上、皆の意見を聞いている。また、話し易い雰囲気を作るように心掛けている。スタッフ会議においては、いつも積極的に意見が交わされている。</p> <p>(外部評価) 月1回スタッフ会議があり、職員が意見や提案を出し合ってコミュニケーションを図っている。出てきた意見等は管理者から代表者に伝えられ、随時ホームの運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 毎月末、提出している報告書には当月の反省や次月の目標、業務上の問題や当月の行事報告等を記載し報告している。報告に対し代表者からは、励ましの言葉や、アドバイス等を得ている。また、問題等が発生した場合は、その都度報告・連絡・相談を実施しているが、適切に対応しており、職員一同やりがいのある働きやすい環境に満足している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内の研修会や外部機関の研修会に積極的に参加できるよう配慮されている。また、職員自身も自分の休日を利用して、スキルアップに取り組んでおり、自分が参加した研修についてはスタッフ会議時に伝達講習している。また、認知症関連のビデオを自宅に持ち帰ったり、昼休み等を利用して自主研修している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 各種研修会や介護等で交流を深め、サービスの質の向上を目指している。特に愛媛県グループホーム連絡協議会の東予地区研修会には、できるだけ毎回出席するよう、心がけている。キャラバンメイトや、介護支援専門員の連絡協議会の研修や会議でも交流を深め、四国中央市の徘徊SOSネットワークづくりや福祉マップ作りにも協力したいと考えている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査では、センター方式を参考に作成した情報収集様式を用い、入居時から本人の生活習慣や嗜好を配慮したケアを心掛けている。本人の困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、入居判定会議において職員間でも情報共有する事により、本人にとってより良いケアをどの職員の時にも提供できるよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居当初には特に、家族との連絡を密に取り、入居者の状況を伝えている。家族にとって困っている事、不安な事、要望等もその時に傾聴し、対応している。行事等の写真は、施設内に掲示し、家族にも便りとともに送付。個人便り（健康通信）も送付する事により、信頼関係を得るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 転倒リスク評価や、ADL状態のチェック、行動障害の状況等事前調査時に実施し、ケアプランに反映している。グループホームの環境が本人に適したものかも見極め、必要に応じて他のサービスの紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の大先輩であるという意識を持ち、職員のわからないこと、知らない事をいろいろ教えていただき、感謝の気持ちを述べている。また、入居者の誕生日はホームを上げてお祝いしている。職員も「大家族」の一員と位置付け、職員の出産や、結婚などの祝い事は入居者とともに喜んでくれ、手作りのお祝いカード等を作ってくれる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしや気付きの情報を共有し、職員と家族が協力して本人を支えるよう努力している。入居前の情報は、家族も快く情報提供してくれている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や親戚の方が気軽に面会に来られ、お話されている。話し易い雰囲気を作るため、他の入居者に、お茶を出して貰っている。これは、「お客様が来られたら、お茶を出す。」という習慣の下、お茶を出してくれる入居者の方にも良い影響があり、頻回に来られる方であれば、その入居者とも新たな馴染みの関係ができていく。職員も面会者とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 利用者の家族、親戚、友人等の来訪時には、話しやすい雰囲気作りを心がけている。職員の温かい見守りの中で、来訪された方をもてなそうと利用者がお茶を出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の準備や片付けなど、日々の暮らしの中で個々の役割ができており、支え合う場面が多い。入居者が入院した時には、病状を確認の上、手作りのお見舞いカードを作成し患者の負担にならない程度の人数や時間・回数を配慮しながら交代にお見舞いに行っている。「早よ元気になって帰ってきなあよ。待ちよるで。」と、時にはお互い涙しながら手を取り合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) まだ、1例だけであるが、残念ながら入居者が亡くなったときには、遺族に連絡を取り許可を得た上で、仲の良かった入居者とともにお仏壇にお線香を上げに行っている。他の施設に入所になった場合も、情報提供を行い、可能であれば面会に行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人がどのように暮らして生きたいのかをそれとなく確認するようにしている。本人が上手く伝えられない場合は、表情等から推し測ったり、家族から情報を得るようにしている。 (外部評価) 職員は、日々の関わりの中で一人ひとりに声をかけて、思いや希望を把握しようと取り組んでいる。何気ない日々の会話や表情、また家族からの情報等も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、本人や家族からお話を聞くようにしている。個々の人生史を記載するシートを用い、ケアプランに反映し、職員間で情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は情報を共有して、個々の生活リズムを把握するようにしている。その際には本人の残存能力に着目し、過介護を避けるよう、心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 日頃のかかわりの中で本人の思いや要望を聞き、家族にも意向の変化や要望等はないか聞いている。また、月に1回職員全体で意見交換やカンファレンスを行っている。</p> <p>(外部評価) 職員がよく話し合い、利用者の思いや家族の希望等も取り入れて、個性のある介護計画を作成している。出来上がった介護計画は各利用者の記録ファイルに綴じ、日々のケアにつなげている。月1回のスタッフ会議で計画を見直し、必要があれば状態に応じた計画を立て直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 介護計画の期間に応じての見直しはもとより、心身の変化が見られたときには、職員間でのミニカンファレンスおよび、本人や家族と相談し、介護計画の見直しを速やかに行うようにしている。また、職員の気付いた点や状態の変化は、話した言葉等を用い、個々にできるだけ詳細に記録しており、職員間の情報共有を徹底している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議等で認知症に関連する様々な事についての勉強会を行ったり、介護保険についての説明や市の行う研修会の案内、職員が出席した、研修会の伝達講習等を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進会議等で、自治会や民生委員と意見交換する場を設けている。ふれあい相談員は月に1度来てくれており、校区内の小中学校、高等学校とも交流を持っている。一方的な慰問等でなく必ず、何らかのお礼をするようにし、地域貢献できるように心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>事前調査のときに、本人や家族にかかりつけ医を確認している。かかりつけ医がない場合などは、協力病院があることを説明し、適切な医療が受けられるよう、支援している。必要に応じ、眼科や皮膚科、歯科等への受診援助も行っている。家族や本人が希望する医療機関が遠方であり、受診援助により残された入居者へのサービスが低下する場合等は、家族に協力を得る事もあるが、情報提供を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者や家族の希望する、かかりつけ医の受診支援を行っている。場合によっては、家族が受診支援を行うこともある。緊急の受診時は、家族に連絡のうえ対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>常勤看護師が利用者の健康管理を行い、異常の早期発見を心掛けている。夜間や緊急時にはオンコール体制をとっているが、常勤看護師が緊急に駆けつけられないときのため、併設施設の看護師に協力を依頼しており、24時間対応可能な状態になっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、文書や口頭で申し送り、入居中や、入居前の情報提供している。入院中は、病院関係者やご家族と連絡を取り合い、早期退院に向けアプローチしている。また、可能な限り、職員や入居者が面会に行き、励ましている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>終末期の看取りケアは、現在の所当ホームでは行っていないが、研修に参加し、介護職にも不安なく受け入れられるよう努力している。緊急時の対応については家族と繰り返し話し合っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>重度化や終末期の方針については、早い時期から利用者や家族に説明し、意向も聞きながら話し合っている。現在まで、ホームでの重度化の対応や終末期の看取りの事例はない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命講習を受講したり、マニュアルを整備したりして急変時や事故発生時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議において消防署の講習を受けたり、消防署を招いての防火訓練、毎月の避難訓練を行っている。併設施設や自治会にも災害時の救援を依頼している。 (外部評価) 消防署の指導のもと、隣接老人保健施設と合同で年2回の訓練を行っている。また、毎月利用者も参加しての避難訓練を実施している。運営推進会議等で災害時の避難援助の協力を依頼しているが、地元住民が避難訓練に参加するまでには至っていない。	災害時には隣接の老人保健施設の援助が得られるとはいえ、職員だけの誘導には限界がある。運営推進会議や地域との交流を通して災害時における地域の協力体制を築き、地元住民と一緒に避難訓練に参加するような実質的な協力につながることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。個人情報の取り扱いに関して、日頃より職員全体で確認しあっている。言葉掛けや対応も、親しみの中に尊敬の意も表すよう留意している。 (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した接し方や丁寧な言葉かけを行っている。排泄のケアを居室にさりげなく誘導して行ったり、利用者と家族の話し合いの状況によっては居室でいただくなどプライバシーに配慮している。利用者の記録類は事務室で保管し、個人情報保護も適切に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側で決めたことを無理に押し付けず、自分で決めることが出来る雰囲気作りを心掛けている。また、日々のかかわりの中で本人のニーズは何か、引き出せるような言葉掛けを心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 集団としての流れを重視するのではなく、今どんな事がしたいのか本人の意向を聞き、尊重するようにしている。日々のかかわりの中で、本人のペースを把握し、対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が衣類を選択できる場合は本人に任せており、自分で選べない入居者については声掛けし、好みの洋服が着れるよう援助している。整髪等もその方の能力に合わせて出来ない部分は介助しながらできるだけ本人の希望を尊重している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 朝食以外は、併設施設にて調理されたものを利用者と一緒に盛り付けている。ホーム内でもおやつ作りや、食事づくりをする回数を増やす努力をしており、食器も陶磁器を使用し、見た目も大切にしている。外でお弁当を食べたり、外食や出前をとるなどの楽しみも設けている。 (外部評価) 朝食はホームで、昼食と夕食は隣接の老人保健施設で調理したもの（時にはホームで料理）を職員と一緒に食べている。食前には、嚥下促進、誤嚥防止の口腔体操を行っている。利用者は、職員と一緒に盛り付けをしたり、食後の後片付けをしており、心身の力の維持につながっている。出前や外食も適度にあり、食事が一日の大切な楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病や高脂血症等の食事療法については、併設施設の管理栄養士の指導も得ながら健康的な食事が出来るよう心掛けている。水分補給も定期的に行い、入浴後や外出後等特に水分が必要などときには適宜追加している。また、個々の喉の渇きに応じて自由に水分が取れるよう配慮もしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人の能力に応じて口腔ケアの介助をしている。また、口腔機能訓練として、嚥下体操を行っているが、食事時のムセが非常に少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。自力でトイレにいける利用者の場合、以前は排便の有無を忘れ確認するのが困難であったが、トイレに「お通じが合ったら職員までお知らせください」と貼り紙をしてから、排便直後自己申告くれる事が多くなった。</p> <p>(外部評価) できるだけおむつを使用せず、職員が一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレへの誘導を行っている。排泄の失敗時も、本人が極力傷つかないように、さりげなく居室に誘導し自立を支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 自力でトイレにいける利用者の場合、以前は排便の有無を忘れ確認するのが困難であったが、トイレに「お通じが合ったら職員までお知らせください」と貼り紙をしてから、排便直後自己申告くれる事が多くなった。便秘の場合は主治医に相談し緩下剤を処方して貰ったり、家族の希望で食物繊維パウダーを味噌汁に混入したりして予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴日は、一人の入居者につき週3回あるが、その日の体調、気分や外出等の都合で柔軟に対応している。入浴時には個人のペースでゆっくり入浴して貰い、入浴剤の使用により、スキンケアとアロマ効果を得ている。系列施設の大浴場を貸切、温泉気分を味わって貰う計画もある。</p> <p>(外部評価) 入浴の順番表を基本に入っているが、利用者の体調等で臨機応変に順番を変えることもある。浴室の横に坪庭を造り、利用者が露天風呂気分を楽しめるよう工夫している。また介護度が高くなれば、隣接の老人介護施設での機械浴が利用できる。同系列のケアハウスの檜風呂で温泉気分を味わってもらうことも企画している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人一人の体調に注意しながら、日中は出来るだけ活動を促し、昼食後には30分程度の午睡の時間を設け、休息も取り、生活のリズムを整えるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人記録に服薬している薬の作用や副作用、服用時の注意等が書かれた用紙をファイルしている。また、特別な注意を要する薬については、看護師から介護職員に説明するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野や出来る事に着目し、一人一人の力を発揮して貰えるよう、お願いできそうな仕事を依頼し、感謝の気持ちを伝えている。レクリエーションや外出行事等も様々な内容を工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気や本人の希望、体調等を考慮し、散歩やドライブ、外食、ショッピング、美術展や音楽会等に外出している。家族が外出させてくれる事もある。	
			(外部評価) 日頃から、一人ひとりのその日の希望にそった散歩や外出、外気浴等の支援を心がけている。またドライブ、外食、スーパーでの買い物、美術展や音楽会、遠出しての花見など、利用者の習慣や楽しみごとに合わせた個別の外出支援を積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て少額のお金を自己管理されている方もいるが、家族よりお金をお預かりし、事業所で管理している方が多い。ショッピングの時にはお預かりしたお金を使用する。また、併設施設の売店や、自動販売機の利用は、閉店時間を除き、希望のある都度対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に手紙を送ったり、気軽に電話できるよう支援している。本人用の携帯電話を所持している入居者もあるが、操作方法がわかっていないので、その都度職員が操作して通話可能になったら本人に渡している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングに季節の花を飾ったり、入居者達が協力して作成した季節の壁画等を飾っている。他の利用者とゆっくり談笑できるようにソファも配置している。空調は、湿度や気温、換気等にも留意している。</p> <p>(外部評価) 前庭に花が咲き揃い玄関には季節の花や利用者の作品が飾られて、家庭的で季節感も伝わってくる。居間は明るくゆったりしており障子戸、大きなカレンダーやテレビ、見やすい時計、利用者の思い出の写真などがあり、過ごしやすい工夫がある。窓からは海が眺められ心地よい空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにもソファを置いてあるが二階にもテーブルとソファやテレビを置いており、気の合った入居者同士でくつろげるスペースを作っている。天気の良い日は、自由に庭のベンチに座り、花や木々を眺めたり、小鳥のさえずりを聞いたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真や絵、本人の馴染みの道具を居室に置いている。寝具は使い慣れたものを持ち込むか、業者から借りるかの選択も出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室には、楽しみの一つであるテレビや使い慣れた小ダンス、衣装ケースなどが持ち込まれ、馴染みの時計やお気に入りの絵画、趣味の書道、色紙の作品などが飾られて、それぞれの利用者が心地よく過ごせる温かい雰囲気づくりに配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) リビングや居室は、バリアフリーになっている。廊下やトイレには手摺があり、自由に移動しやすくなっている。本人の居室前には手作りの名札が飾っており、更に自分の居室が分かりにくい入居者には目印のぬいぐるみを飾っている。トイレもモチーフの暖簾が目印として飾っており「トイレ」と表示している。</p>	